



さしがや保育園 アスベスト健康対策等 専門委員会ニュース

VOL.12

発行者：文京区立さしがや保育園アスベスト健康対策等専門委員会

●事務局 文京区男女協働子育て支援部保育課保育係：東京都文京区春日 1 丁目 16 番 21 号
電話 03-5803-1189 Eメール b311500@city.bunkyo.lg.jp 2016.3.4 発行

1 さしがや保育園アスベスト親子ミーティングを開催しました。

開催日時：平成 27 年 8 月 22 日 17 時 00 分～18 時 30 分

場所：文京シビックセンター4階シルバーホール

概要：《第1部》アスベストとは？

専門委員会の名取委員、永倉委員から、「アスベストとは何か」、「身近に潜むアスベストと対策の必要性」、「アスベストによる健康障害、リスク」等についてお話いただきました。

《第2部》自由歓談

専門家である委員の方も席に加わり、活発な意見交換が行われました。

★参加者の皆様からは、「外の参加者や専門委員の方々がたくさん話すことができよかった」、「アスベストについてよくわかった」とのお声をいただきました。

★今後に向けて

28 年度の開催に向けては、会場でのアンケート結果や、お声を踏まえ、「今後の区の取組」や「健康対策に関する取組」等、ご参加いただく皆さんの知りたい情報をも具体的にお届けできるよう、準備を進めてまいります。



2 希望者の X 線写真を専門委員会の医師が読影します。

高校入学時健診の胸部 X 線写真読影については昨年度、全学年が終了しました。以降については、学校や職場等の健康診断等で X 線写真を撮る機会があった方は、アスベスト関連疾患に経験のある医師に読影（病気がないか確認すること）をしてもらうことができます。子ども達健康チェックができますし、その X 線写真を事務局が保管することで将来の X 線写真と比較することができます。今後毎年、5～7 月頃の募集を予定しています。是非ご利用下さい。

対象：健康対策対象者で X 線写真を撮る機会があった方のうち、希望者。

*この読影のためにわざわざ撮る必要はありません。

*撮影費用の補助はありません。



方法：全員を対象にご案内（5 月頃を予定）が届きます。

希望者は、撮影した胸部 X 線写真のコピーを学校や健診機関からもらい、事務局に提出してください。（7 月末〆切）

事務局で保管するため X 線写真の返却はしませんので、健診機関に相談の上、コピーやデータ等、必ず返却不要な形で提出してください。

費用：無料。X 線写真のコピーにかかった費用や送料は文京区が全額助成します。

3 次回の健康リスク相談・心理相談 28 年 3 月 19 日(土)の予定です

ご案内が届いていることと思いますので、ご希望の方は同封の申込用紙でお申し込み下さい。なお、何かご心配のある場合は相談の開催時期にかかわらず、事務局かアスベストセンターにご連絡ください。専門委員会が対応いたします。

4 自治体の学校施設におけるアスベスト対策についてのアンケート調査

アスベストセンターで実施されたアンケート調査について永倉冬史委員にご紹介いただきました。

2015年5月、アスベストセンターでは「自治体の学校施設におけるアスベスト対策についてのアンケート」調査を行いました。昨年「石綿障害予防規則」が改正されたことに伴い、文科省が通達を发出し、全国の学校施設のアスベスト含有レベル2建材の一斉調査（「特定調査」）を行ったことを受けて、アスベストセンターが独自で行ったものです。このアスベスト含有レベル2建材とは、石綿含有配管保温材、煙突内断熱材、耐火被覆材などです。石綿含有配管保温材は機械室やボイラーの周辺、給食室などの配管の一部（直角に曲がった部分等）に使われた保温材で、アスベストを含む粉状のものが塗りこめられている場合があります。煙突内断熱材は煙突の内側に使われた断熱材で、柔らかく飛散性の高いものです。耐火被覆材は鉄骨の柱や梁の耐火を高めるために使用された板状の被覆板です。過去には学校施設のアスベスト含有レベル1建材の吹付けアスベストの調査は行われてきましたが、全国一斉のレベル2調査は初めての試みです。

アスベストセンターは全国の都道府県市町村の1903教育委員会にアンケートを郵送し、回答を求めました。回答は576教委からあり、30.2%の回答率でした。このうち、文科省の通達を受けレベル2調査を行ったと答えたのは、387教委、67.1%にとどまりました。

アンケートで集計された調査対象学校数は7,642校、施設数では12,076施設になります。そのうちレベル2の疑いがある建材を確認した学校数、施設数はそれぞれ1,069校、1,405施設にのびります。また、これらの調査をだれが行ったかを聞いたところ、学校職員もしくは教育委員会職員が調査したと答えた教委が49.2%とほぼ半数に及びました。

このことは、調査すべきレベル2建材は相当数あると想定されること、レベル2調査を行わなかった（すでに調査済みと勝手に判断している）自治体が多くあること、アスベスト調査そのものが訓練を受けた専門家による調査ではないものが多いことなどが見えてきました。また、アンケートのご意見の欄には「調査費用が負担になり専門家による調査が発注できない」など、調査費用に関する問題点も浮き彫りになりました。

これらの結果を踏まえ、7月10日文科省に対して要請と協議を行いました。また、要請の後記者会見を開きアンケート内容と文科省の回答について発表しました。

文科省との協議では、アスベスト調査が専門家による精確な調査ではなく、国土交通省の認める資格である「建築物石綿含有建材調査者」による精確な一斉調査が必要である。また、調査費用は文科省が拠出し全国一律に学校の安全が図られる必要がある。などについて議論が交わされました。

文科省はレベル2の「特定調査」結果は公表をしないとしていたにもかかわらず、アスベストセンターとの交渉を踏まえ10月16日調査結果を公表しました。発表内容は、「1）石綿の含有の有無にかかわらず、劣化、損傷等がある保温材等を保有する機関、155機関（0.1%）、2）石綿を含有し、劣化、損傷等がある煙突（断熱材）を保有する機関、380機関（0.3%）」としています。これらの文科省の発表数は訓練を受けた専門家（建築物石綿含有建材調査者）による調査ではありません。この調査結果に基づいて今後学校校舎等の工事発注が行われた場合、アスベスト粉じんを飛散させずさんな工事につながりかねません。調査費用の文科省負担への働きかけとともに、学校施設の精確なアスベスト調査の要請を今後も続けていく必要があります。

子供たちが一日の中で長い時間を過ごす学校に、いまだに大量のアスベストがさまざまな形で存在し続けているという現実、イギリスやアメリカでも新聞報道などが注意を呼びかけています。このような施設のどこにどのような状態でアスベストが潜んでいるかを正確に調査し、継続的に監視し、公表して情報が保護者に知らされて行かなければなりません。このような事態からみなさんが身を守るために、改修工事や解体工事のアスベストに興味を持ち、工事説明会などに参加しアスベストのことを質問し、工事現場ではアスベスト対策が正しく行われているかアスベストセンターや区役所等に連絡し確認、指導を要請するなどが有効です。

5 文京区ホームページでご案内をしています

文京区のホームページでは、保育課の「お子さんの安全について」の項目の中で「さしがや保育園アスベスト健康対策等について」というページに、胸部X線写真読影事業や健康リスク相談・心理相談のお知らせ、専門委員会の会議録などをアップしています。日程等も決まりしだい随時更新しています。是非ご覧ください。

★保護者メーリングリストご参加のお誘い★

保護者の森さんが作成した、委員会開催情報や要望などの意見を交換できるメーリングリストがあります。

保護者むけメーリングリストに参加希望者は、森 英記さん saxomori@mvc.biglobe.ne.jp までご連絡下さい。すでに40人近くの方が登録いただいています。

